

生体分子の構造や相互作用を変化させる場の水和状態の解析



藤田 恭子
東京薬科大学
講師

細胞内はタンパク質やその他の高分子等で込み合っており、水分子は自由水ではなく束縛水として存在していると考えられています。このような束縛水環境下で進む諸反応が生理機能発現の鍵を握ると予測されます。本研究はイオン液体の構造を選択し、含水率を連続的に変化させながら、自由水 / 束縛水量や水素結合ネットワーク状態などを変化させた場の構築を進めます。このような場を用いて、生体分子の高次構造や相互作用に及ぼす水の影響について解析します。

